

## 体系的內容の研究発表による自学の深化と授業での学生の相互作用

家政教育講座・宇高 順子

### 1. 本授業の目的と概要

本授業は、家政教育専修および生活環境コース3回生の選択科目である。

食料生産・流通・消費のあり方が、食のグローバルな社会問題（食料問題）、環境問題と密接に関連していることを学び、問題の現状、原因、解決方法を概観できるようにするとともに、生活者として生活を見直す態度を育成することを、授業の主たる目的としている。その他に、食と個人の健康問題、学校教育における食育についても学ぶ。

<授業のスケジュール>

- 1 ガイダンス 主食とは
- 2 主食の重要性、  
稲作と食料自給、環境等への影響
- 3 糖尿病、
- 4 咀嚼
- 5 世界の人口・食料問題
- 6 世界の人口の変遷と食料生産、緑の革命
- 7 安全で美味しい食料（豆腐）の生産（外部講師）
- 8 食料自給率、国際貿易交渉と食料問題
- 9 食と環境：農薬
- 10 食と環境：遺伝子組み換え
- 11 食料生産と環境問題の相互作用
- 12 社会的ジレンマを考える
- 13 TED ビデオ（人口食料問題、格差・平和問題）
- 14 グローバルな社会問題を考える（ゲーム）
- 15 食育 学校給食 消費者教育

このうち、5～6回目、8～11回目までの6回を、学生の研究発表に当てた（1回に2人×30分発表後、質疑応答）。

評価は、発表までのプロセス、発表、毎回の質疑応答ならびに考察文の提出、授業内容を深化させる最終レポートを総合して行った。

### 2. 授業の工夫点

現代社会の課題である食料問題や環境問題は、

複雑な要因が絡み合っており、授業には、多様なアプローチと、全体を概観できる体系的內容が求められると考える。

私は、過去の授業で、このような大きな社会課題について学生に自由に研究発表させたことがあったが、内容がつまみ食いで、体系立たず、問題の現状、原因、解決方法の概観に至るにはほど遠いものであった。

そこで、このような複雑な社会問題を概観できるようにするために、卒業研究等で、プレゼンテーションを中心とするわかりやすい体系的內容の教材作りを行ってきた。そして、これを活用して授業を行ったところ、年を追って内容が充実すればするほどに、学生が理解し、興味関心を継続させることが困難になるという問題が起きるようになり、ジレンマに陥った。

しかし、授業のレベルを下げたくなかった。大学で、食を学ぶなら、このレベルのことは学び、考えることのできる人になってほしいという気持ちは譲れなかった。

その結果、今年度は、これまでに作ってきたプレゼン教材で、私が授業するのではなく、学生に発表させることにした。発表テーマごとに分割して発表担当の学生の基礎教材として与えた。これを土台に、①まずはその内容を理解し、②最新の資料を加え、③わかりやすく工夫し、④目次と各画面の見出しを統一的に整理することにより、体系づけを意識させた。また最後に、⑤発表内容を整理したまとめ問題（穴抜き問題）の画面を作らせることとした。

ガイダンスで詳細にこのような授業方法を予告したところ、受講者が一気に3分の2位に減少したが、この内容と方法にチャレンジし満足する学生がどれくらい現れるかを確かめたいと考えた。

### 3. 授業実践

すでにひととおりできあがった教材を与えることが学生のためになるのか、疑問をめぐえなかったが、実際にやってみると、意外にも杞憂であっ

た。なぜなら、学生は、人前で発表するために、①の基礎教材の内容を理解しなければならず、わからなければ、インターネットの情報源から読み直し、内容の全貌が理解できるようになるまで、自分でも情報を求め、②の新たな情報の有無を確認し、私の与えた教材を学生なりに上乗せして、自分の中でこなれた物にして発表するに至っていたからである。強弱はあったが、どの回もほぼそのような作業を行っていた。

学生による発表内容のたたき台に、私が添削を加え、③のわかりやすさ、④目次と各画面の見出しの統一性、⑤まとめ問題が発表内容の要点を押さえているか等の確認とアドバイスをを行った。一定レベルに達するまで、添削・修正のやりとりを繰り返し、完成度を高めた。

そして授業より前に教材を Moodle にアップして、受講生に、予習して、質問を考え、印刷してくるよう指示した。

学生は、学生同士の発表には居眠りすることなく、長くても熱心に耳を傾ける。学生同士、理解しやすい表現で説明するので、自然とわかりやすいという利点もある。密な内容を、学生はバツサリとそぎ落とし（過ぎる場合もあるが）、時間内に収めるのがうまい。濃厚な内容を私が講義するよりうまくいったと考える。必要に応じて、私が補足説明をした。

質問に答えられない場合は、Moodle のフォーラムで回答するようにした。ただ、放置する学生もいた。

#### 4. 授業評価アンケートと展望

以下は授業評価アンケートの結果である。

回答者は5名。5段階評価。

- (1) 課題の内容や量は適切だったか。  
「適切」4名、「普通」1名
- (2) よく自学したか。  
「よく自学した」1名、「まあ自学した」4名
- (3) 意欲的に取り組めたか。  
「とても意欲的に取り組めた」5名
- (4) 難易度は適切か。  
「全般的に適切」5名
- (5) 知的におもしろい授業だったか。  
「大変おもしろい」5名
- (6) 得るところはあったか。  
「大変あった」5名
- (7) 教員の話し方や説明はわかりやすかったか。  
「わかりやすかった」5名

#### <自由記述>

- ・課題はじっくり考えて取り組めた。
- ・課題の添削により、わかりやすいパワーポイントのコツを学べた。
- ・課題の難易度は高かったが、やりがいがある難易度だった。
  
- ・授業は、毎回見ていてとても楽しかった。
- ・楽しい授業で、もっと自分でも勉強したいと思う内容がたくさんあった。
- ・1つの問題に対して、その背景や原因など根本から説明してくれるので、内容はぎっしり詰まっていたが、事柄と事柄との間に関連性が見えて面白かった。
- ・人によって発表の密度が違っていたので、もう少し均等にしたらいい。
  
- ・発表の後の2回（13・14回目）の授業で、一人の行動が全体へ及ぼす影響について、今までは感覚的にしか理解できなかった部分が、より鮮明に理解できるようになった。
- ・TED の映像やロールプレイゲームは、学んだことを定着させるのに効果的だと感じた。
  
- ・今まで受講してきた授業の中でいちばん興味のある内容だった。食の問題を解決するためにどのようなことをすればいいのかを知ることができたので、自分で実行するだけでなく、周りに情報発信していきたい。（そのような方向で就活をしたいと。）
- ・先生の授業はとても面白くて、4回生になる前に気付くべきだったと思う。この授業で学んだことは、将来家庭科を教えていく際に絶対生きてくると思う。

学生の発表の後の「12 社会的ジレンマを考える」は、本授業内容に強く関心を持った過去の学生が、自ら卒業研究のテーマとして取り組み作成した教材を活用した。その学生も、その方面で就職した。

本授業の課題はしんどいが、内容のおもしろさや意義を感じる学生が、私の予想以上に多く現れ、喜びに堪えない。

この方式の基礎ができたので、もう少し、学生同士が刺激し合う方法があればと思う。